

指導資料

 鹿児島県総合教育センター

特別活動 第18号

—小・中学校，特別支援学校対象—
平成24年4月発行

特別活動における学習評価の在り方

新学習指導要領では，特別活動を通して育てたい力を一層明確にするために，全体目標に「人間関係」を加えるとともに，各活動・学校行事を通して育てたい態度や能力が新たに目標として示された。

特別活動の評価については，学習指導要領の目標及び特別活動の特質等に沿って，各活動・学校行事ごとに，各学校で評価の観点を決める必要がある。

そこで本稿では，特別活動の目標に準拠した評価について，その特質を明らかにするとともに，各学校における評価の手順について，具体例も含めて述べる。

1 特別活動における評価の観点と趣旨

学習指導要領における評価の観点及びその趣旨については，文部科学省通知「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（平成22年5月）の中で示された。表1は，特別活動の評価の観点とその趣旨を整理したものである。

なお，この観点については，表1を参考にして，各学校で自ら設定し，指導要録における「特別活動の記録」の欄に記入することになっている。

表1 特別活動の評価の観点・趣旨

観 点	趣 旨
集団活動や生活への関心・意欲・態度	学級や学校の集団や自己の生活に関心を持ち，望ましい人間関係を築きながら，積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。
集団（や社会）の一員としての思考・判断・実践	集団（や社会）の一員としての役割を自覚し，望ましい人間関係を築きながら，集団活動や自己の生活の充実と向上について考え，判断し，自己を生かして実践している。
集団活動や生活についての知識・理解	集団活動の意義，よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方，自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

()は中学校の内容

各観点について評価する際の配慮事項は，次のとおりである。

- (1) 集団活動や生活への関心・意欲・態度
この観点については，「望ましい人間関係を築きながら，特別活動の各活動・学校行事に積極的に取り組もうとしているか」を評価することに配慮したい。
- (2) 集団（や社会）の一員としての思考・判断・実践

この観点については，学校として重点化した内容を踏まえ，育てようとする資質や能力などに即して，具体的に定め，各学校が設定することを意図している。その際，「これまでの経験や知識等を活用して，集団（や社会）の一員として，適切に考え，判断し，実践しているか」を評価することに配慮したい。

- (3) 集団活動や生活についての知識・理解
この観点については、「特別活動を進める上で必要なことを理解しているか」を評価するに当たり、本観点を例示した意図を踏まえ、望ましい集団活動を進めるために必要な知識を習得させる指導が軽視されることのないように配慮する必要がある。

2 特別活動の評価の進め方

(1) 評価体制の確立

特別活動には、全校又は学年を単位として行う活動があり、学級担任以外の教師が指導することも多いので、評価に当たっては、評価体制を確立し、学校全体で組織的に行う必要がある。その際には、次のような点に配慮したい。

ア 個々の児童生徒の活動状況について担当する教師との間で情報交換を密にすること。

イ 評価に必要な資料の収集方法を工夫するとともに、それらが学級担任によって集約、活用されるようにすること。

ウ 必要に応じて、評価した結果を全教師が共有し、指導に生かせるようにすること。

(2) 評価の対象

特別活動においては、様々な生活集団（学級、児童・生徒会、学年、学校全体等）の中での、個々の児童生徒及び集団の成長や発達が評価される。言い換えると、教科等では、その目標や学習内容に対する個人の実施状況等を主たる評価の対象とするが、特別活動では、人間関係

の関わりを視野に入れた個人の状況と集団の有り様が対象となる。

個々の児童生徒を評価する場合、学習指導要領に示されている特別活動の目標や内容等に対して、個人としてどれだけ実現できたかという結果だけでなく、それに向かってどのように主体的に参加し活動しているかなど、「活動への取組」や「活動の過程」、「集団内の相互行為のもち方」なども評価の対象となる。

つまり、個人内資質や能力等の成長・発達とともに、よりよい自己や望ましい集団の形成・発展に向けて活動する力、自主的・実践的な態度、社会的資質や能力などが育っているかが問われる。

このように特別活動の評価に当たっては、学校全体の評価方法や評価体制を確立する必要がある。学校としての評価体制等が問われること自体が、特別活動の特質を示すものである。

(3) 評価の手順

各学校においては、特別活動の特質を踏まえ、以下のような手順を参考にして適切に評価を進めることが必要である。

- ア 特別活動全体及び各活動・学校行事ごとの指導と評価の計画を作成する。
- ↓
- イ 計画に基づいて、評価の基礎資料を収集する。
- ↓
- ウ 児童生徒一人一人のよさや可能性を生かし伸ばす点から、好ましい情報や資料は、随時当該児童生徒に伝えたり学級等で紹介したりする。
- ↓
- エ 収集した資料を各学校の所定の手続きに従って総合的に判断し、評価を行う。
- ↓
- オ 評価結果を、各学校における指導や評価体制の改善に生かす。

3 具体例

学級活動(2)「日常の生活や学習への適応及び健康安全」の指導と評価の具体例

(※は、指導と評価の一体化を図った具体例を示す。)

(1) 題材 「自分を知ろう、友達とつながろう」(第5, 6学年)

(ア 希望や目標をもって生きる態度の形成)

(2) 題材について

ア 児童の実態

- ・ お互いの立場や気持ちを思いやる言動が多い。
- ・ 縄跳び運動や持久走, 水泳など, 学校の活動に対してあきらめずに取り組むことができる。
- ・ 自分の目標や将来の夢について, 自信をもって話すことを苦手としている児童が多い。
- ・ 責任のある役割を主体的に果たすことに対して消極的である。

イ 題材設定の理由

この時期の児童には, 自我の目覚めとも言うべき思春期特有の心情の発達が見られる。このことが希望や目標をもって生きることへの意欲につながるようにするために, 道徳の時間との有機的な関連を図る必要がある。道徳の時間で培われた道徳的心情が, 日常生活の様々な人々や事物とのつながりの中で, どう生かされるのかを考えさせたい。その上で, 特別活動における具体的な活動場面において他とのつながりの中で生きている自分自身を大切にしようとすることによって, 主体的に生活しようとする態度を育てたい。

(3) 本題材のねらい

自己を見つめたり, 友達とのつながりを互いに確認したりすることを通して, 自己を肯定的にとらえることよさや他者から受け入れられることよさについて考え, 他とのつながりの中で生きている自分自身を大切にしようする意欲をもつことができる。

(4) 第5学年及び第6学年の評価規準 (下線は, 学校の実態を踏まえて加えた部分) ※

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち, <u>自分なりの目標をもって</u> , 自主的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために, 日常の生活や学習の課題について話し合い, 自分に合ったよりよい解決方法などについて <u>主体的に</u> 考え, 判断し, 実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ, そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

(5) 指導に生かす評価の実施について ※



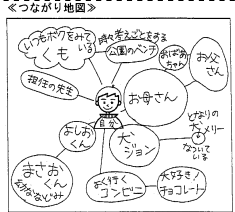

本時においては, 他とのつながりの中で生きている自分自身を大切にしようする自己決定がなされ, 実践に向かう意欲をもてるようにするために, 学習活動2の場面(「自分の中のいろんな自分」というワークシートをかく。)及び学習活動5の場面(「つながり地図」をペアで互いに説明し合って感じたことやこれから取り組みたいことを書き発表する。)を中心に評価を行う(P4「(7)本時の展開」を参照)。

学習活動2の場面における評価は, ねらいに迫る指導を行うための形成的評価, 学習活動5の場面は, 本時の結果として自己決定の状況を評価し, 事後の指導に生かすための診断的評価である。

(6) 事前の指導 (道徳の時間)

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 (評価方法)
「道徳の時間」において, 自尊感情とはどういうものか, どのようにしてもつことができるのかを考える。	自尊感情の意味や意義を理解させるために, 著名なスポーツ選手の言動から考えさせる。	自尊感情を高めるには, 自分自身を見つめること, 周りの人とのつながりを大切にすることが重要であることを理解させる。(ワークシート)

(7) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
導入 5分	1 道徳の時間における話し合いを想起し、自分を知るためには「自己から見た自分」「他者から見た自分」を見つめることが重要であることを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間との関連を意識しやすくするために、前時で使用した資料や、子どもの発言を示しながら振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 下の板書を基に、自分を知るためのポイントを理解している。(前時のワークシート・観察) 
展開 25分	2 「自分の中のいろんな自分」(ワークシート)を記入する。 3 「つながり地図」を記入する。 4 「つながり地図」をペアで互いに説明し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の中のいろんな自分」を肯定的に捉えられるようにするため、ワークシートの記述を評価し、否定的な捉え方に偏っている場合は、事前の道徳の時間と関連付けさせ、他とのつながりの中で、認められている自分、主体的に生活している自分もいることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> どんな自分も大切な自分であることに気付くことができる。  <p>【思考・判断・実践】(ワークシート・観察)</p>
終末 15分	5 「つながり地図」をペアで互いに説明し合って、感じたことやこれから取り組みたいことを書き、発表する。(自己決定) 6 教師の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 一人の人間の中に「いろいろな気持ち」があり、「いろいろな自分」がいることを発見し、受け入れることが重要であることに気付かせるため、いろいろな自分がグループで受け入れられていると感じられる児童の発表を取り上げ、そのよさを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が、他とのいろいろな「つながり」の中で認められ、生きていることを感じることができる。【思考・判断・実践】(ワークシート・観察) 

(8) 授業(学習活動5の場面)における児童の発言例、評価【思考・判断・実践】及び指導の手立て ※

児童の発言例	評価	指導の手立て
自分とのつながりやみんなとのつながりを知って、普段気が付かないような場所や生き物も、自分とつながっているとよく分かった。	A	自他のつながりのよさを理解した上で、更なるつながりを求めようとする意欲を認め、賞賛する。
自分がどんな人や物とつながりがあるのかを地図にかいた。もっと自分のいいところを増やし、自分のよさに自信をもちたいと思った。	B	ワークシート「自分の中のいろんな自分」と「つながり地図」を照応させ、自分のよさと他とのつながりを再確認させる。
つながり地図にかく活動が、おもしろかった。	C	他とのつながりのよさについて、どんなことを感じたか、振り返らせる。

(9) 事後の指導(道徳の時間)

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿
道徳の時間【主題名「命の価値」(3-1)生命尊重】において、他とのつながりにおける自分の役割について、資料「妹の手紙」を基に考える。	特別活動における評価を基に、他とのつながりにおいて自分自身が存在することの意義を考えさせる。	自分の命、存在を大切にしていきたいという道徳的心情を、特別活動の「つながり地図」と関連させて高めていく。

本稿では、学級活動の評価の具体例を紹介したが、学校行事や児童・生徒会活動などの評価に当たっても、特別活動の特質を生かしながら、各学校が、教育課程の特色や児童生徒の実態を踏まえ、評価の観点を設定していくことが大切である。

— 参考文献 —

- 文部科学省「小学校学習指導要領解説特別活動編」, 東洋館出版社, 2008年
- 国立教育政策研究所「評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料」, 平成23年 (教科教育研修課)